暁木会会員 各位

平成 27 年 9 月吉日 暁 木 会 http://www.gyoubokukai.jp/

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。 今回の暁木会ニュース第30号では神戸大学工学振興会 新理事長の挨拶、平成26年度総会報告に加え、スタートライン、大学からの竹山准教授の研究報告、現役学生の就職活動、現役最前線など幅広く会員様から寄稿して頂いております。ぜひご通読頂けますようお願いします。今後は大学、学生、会員等の皆様に幅広くニュースをご通読して頂けますよう広報Gも頑張って参りたいと考えております。皆様にもご協力の程お願いします。

神戸大学工学振興会 理事長 挨拶

このたび5月の定時総会でKTC理事長を拝命することになりました、22回卒業の鴻池一季です。

神戸大学暁木会の活動は、従来からの総会、会員名簿の 定期的な発行に加えて、最近になって大学との意見交換会、 暁木一水会の定期的な開催など充実した内容となっており、 さらに、その活動を支える会員の増強にも積極的に取り組 まれていると聞いております。これは、役員の努力と会員 の皆様の協力の結果だと思います。

他学科の卒業生から、「土木は団結が強い」と言われることがありますが、これは、土木の仕事が、個々の現場に応



じたオーダーメイドであり、与えられた仕事をするためには、多くの情報を必要とし、信頼できる情報元確保のためにも同窓会ネットワークを大切にするという意味ではないかと思います。

昨今は、携帯電話やeメールなどの便利なツールがあり、連絡は容易に取れる時代になりましたが、それ以前はもとより、現在においても卒業生名簿にお世話になることが多いと言ってもよいでしょう。そういった意味で、KTC事務局の支援により充実した名簿管理がなされており、暁木会会員の心強い味方というべきでしょう。

また、新しい土地に赴任した場合にも、東京、東海、岡山、広島の各地に支部があるため、孤立することなく赴任地になじみやすいという意味で、支部活動も同様に暁木会員にとってありがたい存在というべきでしょう。

このような充実した暁木会活動を背景に暁木会の皆さんが、市民生活に密接な関係のある安全・安心なまちづくりに重要な市民工学の分野の仕事に精励されることにより、国内はもとより、住みよい世界の実現に貢献していただきたいと願っています。

今回の KTC 理事長就任を契機に暁木会の行事にも時間が許す限り参加していきたいと考えていますので、会員の皆様方のご理解とご協力をお願いし、就任の挨拶とします。

平成 26 年度総会

平成 26 年度の総会と懇親会を例年通り湊川神社の楠公会館で開催いたしました。今回 の総会も例年通り、新入会員 100 名と対面形式の配席でとり行われました。

総会では、来賓紹介、会長挨拶、5 つの議案について議事が行われ、全会一致で可決されました。その後、新入会員の紹介、優秀学生5名の表彰がありました。新会員歓迎の言葉は、北條和彦様(97℃)により、新会員に向けて、「神戸大学の先輩が、何か力になってもらえると思います」と励ましの言葉が述べられました。新会員代表の挨拶は【市民工学教室表彰】を受賞した能登谷祐一様から、「入学直前に東日本大震災を経験したことによる市民工学への取組み、両親・仲間への感謝」と若者らしい挨拶でありました。

懇親会では、来賓挨拶・乾杯を来馬章雄様(新制⑦回)に、中締めを中村五郎様(新制②回)により行われました。

今年度の暁木会役員は会長に新制 27 回の尾原勉様、副会長に新制 32 回の河村優一様、新制 33 回の寺谷毅様に、9 人の常任幹事で構成されることになります。なお、議案の内容は HP の資料をご覧下さい。





■華やかな新会員の面々

日 時:平成27年3月25日 総会18:00~19:20、懇親会19:30~21:00

会 場:湊川神社 楠公会館

出席者:ご来賓(名誉教授、教官)22名、会員55名、卒業生・修了生100名(合計177名)

議事:1.会務報告 2.会計報告

3. 監査報告 4. 役員改選 5. 予算案

【新会長:尾原勉②、新副会長:寺谷毅③】

【新常任幹事:福田雅人40、石原純43、小川清貴42】

次 第:·大学近況報告、支部活動報告、KTC報告

· 曉木会会長賞:多田拓晃様 KTC理事長賞:村西将英様、

修士論文優秀発表賞:上平雄基様、中大輔様、

市民工学教室表彰:能登谷祐一様 ・新会員歓迎の言葉:北條和彦様97C ・新会員代表の挨拶:能登谷祐一様 懇親会: 来賓挨拶・乾杯:来馬章雄様(7)

中締め:中村五郎様(2)

|会員数|:卒業・修了者:4,730人、会員数3,719人(平成27年4月1日現在)

H27年度役員

会長:尾原勉②、副会長:河村優一③2・寺谷毅③3、KTC理事:岩田修三②、宇田隆彦③2、水池由博②0、常任幹事:中山徹97C、芦田涉④3、福田雅人④0、山下剛③7、北田敬広98C、石原純④3、恒藤博文④2、小川修隆院28、小川清貴④2



■総会の様子



■新会員の自己紹介



■新会員代表挨拶 能登谷祐一様



■懇親会中締め中村五郎様(2)

スタートライン

名工建設株式会社 名古屋施工本部 土木工事部 飛島 JCT 作業所 小瀧諒子 13C

私は、2013年に名古屋の名工建設株式会社という会社に入社して今年3年目になります。 名工建設はJR東海の仕事を多く受注している名古屋のゼネコンです。入社から2年間は、 本店で積算業務を担当していましたが、今年の2月から現場に配属になりました。現在は、 名古屋第二環状道(名二環)と伊勢湾岸自動車道とを繋ぐ飛島ジャンクションの橋梁下部工

3年目というともうだいぶ仕事も分かってひとりで考えて動けるようになっているはずなのですが、2年間の支店内での業務とは全く違う業務で毎日が新しいことの連続でわからないことばかりです。

の工事に従事しています。

しかし、後輩もできて、協力業者や発注者といった 社外の方と打合せも行っていかなければならず、知ら ないでは済まない事も多々あります。

主な業務の内容としては、工事写真や測量、立会の 準備・報告があります。学生時代は大嫌いだった理系 科目ですが、構造力学、土質工学等昔の参考書を引っ 張り出してきて仕事をしています。最近では、仮設 構造物のボルトの本数の検討をして発注者に説明に



■工事現場での作業中

行きました。大学時代は何のためにしているかわからなかった土木の科目が、現場に出て 発注者の方に説明する場面や施工管理を行う上で、本当に役立って驚きました。土木工学 は経験工学とよく言われるように、経験を積んで身に付けていくこともたくさんあります が、技術者として、知識力も重要だということを現場に出て実感しています。

私の現場での主な担当は基礎杭です。現在鋼管回転杭という先端に羽根の付いた鋼管杭を回転圧入する工法で3ピアの施工が完了しています。杭径 1200 mm、杭長 30mの杭を打設するのですが、斜杭という 10° 傾けた杭の施工も完了しました。掘削も完了し、出来形計測を行うと、斜杭も含め、偏芯は2、3cm程度に収まっていました。かなり精度良く収まっており、現場配属になってから一番達成感を感じました。今後は、鋼管ソイルセメント杭というオーガ掘削しながら排土とセメントミルクを撹拌して杭を造築する工法で 30 基程施工する予定です。

現場配属になってから、睡眠時間も短くて、プライベートな時間もなくなり、日焼けしてあご紐の跡がついて、毎日泥と汗まみれになって、怒鳴られながら仕事をしています。 しかし、毎日少しずつ構造物が出来上がっていき、少しずつ私のできる仕事も増えていく ことを実感できて本当に充実しています。

一日でも早く仕事を覚えて、諸先輩方のように現場をまわしていけるように、また、知識や経験を身に付けて一人前の技術者になれるよう日々精進しますのでご指導・ご支援をよろしくお願い致します。

そして、10年後、当社初の女性の現場所長になりたいと思います。

研究報告(数値解析による地盤に関する防災・減災)

准教授 竹山智英

2015年4月1日付けで市民工学専攻に着任した竹山です。東京工業大学国際開発工学専攻において2年間、国土技術政策総合研究所において1年間、東京工業大学土木工学専攻において5年間の勤務を経て、この度、神戸大学に赴任してまいりました。専門は地盤工学で、特に有限要素法や粒子法といった数値解析手法を用いて研究を行っています。今後はこれらを用いて地盤に関する防災・減災問題に取り組んでいきたいと思っています。本稿では、現在行っている研究のうち、2つの研究について紹介させていただきたいと思います。



1.「京」コンピュータを用いた液状化に関する大規模数値解析

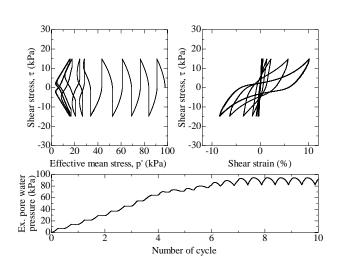


図-1 繰返しせん断試験のシミュレーション

との相互作用を考慮した(土/水連成)動的有限要素解析プログラムを開発いたしました。 プログラムには液状化を考慮できるような構成モデルを組み込んでいます。このプログラムを用いて、応力振幅一定の繰返しせん断試験のシミュレーションを行った結果を図-1 に示します。繰返しせん断による有効応力の低下やひずみの蓄積、それに伴う過剰間隙水圧の上昇が要素レベルで表現できていることが確認できます。

2. 粒子法を用いた豪雨に伴う斜面崩壊についての研究

近年多発している豪雨に起因する土砂災害への対策は今後ますます重要な課題になると予想されます。激甚化する土砂災害に対して有効な対策をするためには、土砂災害の発生を予測することはもとより、発生後の土砂の流出範囲の予測も有用な情報になります。

斜面崩壊のような非常に大きな変形を伴う現象の解析に向いている粒子法を用いて土砂災害に対する予測に必要な数値解析手法を構築したいと考えています。この研究で用いているのは粒子法のひとつである Smoothed Particle Hydrodynamics (SPH 法) です。SPH 法はもともと星雲の生成・衝突などを計算するために提案された手法ですが、現在では固体力学や流体力学などの問題に幅広く適用されています。SPH 法はメッシュを必要としないLagrange 解析手法であり、そのため前述のように有限要素法などメッシュを必要としない理解が手法では困難な非常に大きな変形を伴う現象の解析に向いています。図-2 に物理模型実験のシミュレーションの例を示します。これは非連成解析ですが、地盤材料は土骨格、間隙水および間隙空気から構成されているため、その挙動を考えるためには連成問題を解く必要があります。まずは飽和地盤を対象とした問題を解くことができるように土/水連成SPH 法を開発しました。図-3 に浸透による斜面崩壊の遠心模型実験のシミュレーション結果を示します。変形にかかる時間や変形量について正確に予測できる段階には至っていませんが、定性的には模型実験を再現することができました。今後は、不飽和土モデルの導入や境界条件の正確な処理等ができるように改良し、最終的に豪雨に伴う斜面崩壊の予測や有効な対策の検討ができるようにしていきたいと考えています。

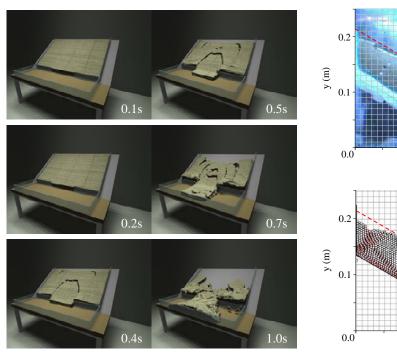


図-2 模型実験の SPH 法によるシミュレーション

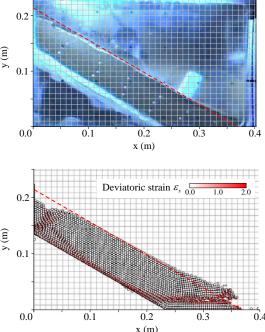


図-3 遠心模型実験結果と SPH 法による計算結果

現役学生生活紹介 (就職活動報告)

石原 雅晃

長期にわたる就職活動の末、私は高速道路会社から内々定を頂くことができました。今年から活動時期に変更があり、企業側も学生側もどのように進めるかを悩んでいたように感じます。そんな中、私も人生初の就職活動に悪戦苦闘していました。

就職活動が3月に解禁になると言いましても、周囲の人はインターンシップに参加したり、志望企業の目星をつけたりしていました。しかし、2月の最終日まで就職について全く考えていなかった私は、公の開始前から出遅れていたことになります。活動開始時期に苦しんだのは、就職活動とはいったい何なのかを理解することでした。日本だけでも400万を超える企業が存在しており、その中から自身の生涯を賭けて良いであろうと思える企業を見つけるわけですから、軽い気持ちでは決められませんし、自身にとって一番良い企業の基準というものも全くわかりません。それを見出すために各企業の説明会に行っても、企業にチェックされているのではないかとビクビクした膨大な数の就活生と呼ばれる学生たちが集められ、扱っている事業は違っていても企業の良いところという同じような話を繰り返しされており、なんと時間の無駄なのだと思いながら2か月余りを過ごしました。

私には就活が向いていないのではないかと考えていた時に、ある社会人の方とお話しする機会を頂きました。その方によると、「企業は一緒に働きたいヒトを探しているし、学生側も一緒に働きたいと思う企業を探せばいい」ということでした。そこから、自身がこれまでどのようなことを考え何がしたいのかを見出す、所謂自己分析というものを深めました。私の場合は公共性の高いものづくりを通して人の生活を支えたいという思いから土木を専攻しました。その中でもモノの持つ機能を最大限に発揮させたいという思いから計画分野の交通を専門としてきました。自身の原点を振り返ったことにより志望企業を絞ることができました。その結果、そのお話をしてくださった方と共に働く機会を得ました。

私にとって就職活動とは、人生で最も多くの人に意見を頂き自分自身のことを考え、それを人に伝えることに尽力した期間であったと思います。その中で私は人との「縁」が重要であると感じました。「縁」を大切にし、今後は勤める企業を通して社会に貢献する人間になれるよう精進します。

田原 俊彦

私は、今年の3月から就職活動を行い、最終的にJFE エンジニアリング株式会社から内々定を頂くことができました。私は、プラント・エンジニアリング業界を中心に就職活動を行っていました。プラント・エンジニアリング業界を志望した理由は、取り扱っているプロジェクトの社会への貢献度が大きく、また設計・施工が分業化されている通常の建設業界とは違い、専門領域の異なる技術者と協力しながら、設計、調達、建設の全てに携わることができる点に大きな魅力を感じたからです。その中でもJFE エンジニアリング株式会社を選択した理由としては、事業領域が広く、それに伴い土木技術者として活躍することができる領域が広い点に魅力を感じたからです。来年度からは、一人の土木技術者として

少しでも社会に貢献していきたいと考えています。

大学では、気象・水文研究室に所属しています。研究室では、気象情報を用いて自然災害による被害を最小化する方法について、市民工学の観点から研究を行っています。私は、以前から土木工学だけでなく気象学にも興味があり、大学在学中に気象予報士の資格を取得することを目標としていたことから、この研究室を選択しました。最終的には、指導教員である大石哲教授の丁寧なご指導もあり、気象予報士の資格を取得することができました。気象・水文研究室に所属してわかったことは、土木工学、特に水工学分野と気象学は密接に関係しているということです。近年、大雨などによる自然災害が頻発している現状の中で、自然災害に対する防災・減災のための方策を的確に進めていくためには、土木工学と気象学両方の知識を持った技術者が今後さらに重宝されるのではないかと私は考えています。

三木 大地

私は3月から就職活動を行い、その結果、鹿島建設株式会社から内々定を頂くことができました。かねてより志望しておりましたゼネコン業界で働くことができることを大変嬉しく思っております。

私は高校時代、神戸大学の先生に市民工学科の説明をして頂き、土木業界に興味を持ちました。そして、神戸大学入学し、三回生時に学科のインターンシップで鹿島建設の現場に二週間お世話になりました。そこでものづくりの大切さ、面白さ、自分が作ったものが後世に残るという達成感を学び、ゼネコン業界を志望することになりました。

就職活動においては OB 訪問や説明会など、社員の方にお話が聞ける場にはできる限り参加し、その会社の情報を多く集めることに努めました。 OB 訪問では先輩ということもあり、説明会などでは聞きにくいことを気兼ねなく聞けたことは大変貴重な情報になったと思います。また、ゼネコン志望でありながらも、他の業種の説明会にも行き、ゼネコン業界を外から見るということを行いました。面接では自分が言いたいことを相手に伝える能力が求められます。初めの内はそれが難しく、苦労しましたが、写真のように研究室の同期と相談したり、練習を重ねることにより改善されました。

就職活動は大変なことも多く、精神的にもつらい状況が多々ありましたが、それを乗り越えたことによって一つ大きな人間なることができたという点で大変貴重な経験であったと思います。また指導教員や研究室の皆様、両親には大変お世話になり、感謝すると共に、人との繋がりの大切さを身にしみて感じることができました。



■研究室での様子

現役最前線

島根原子力発電所の安全対策について

中国電力株式会社 電源事業本部 島根原子力発電所

黒岡浩平(3) 院 22

昭和 62 年に大学院を修了後、中国電力株式会社に就職し、主に火力・原子力発電所の計画・設計・建設に関する業務に従事してきました。現在は、島根県松江市にある島根原子力発電所において副所長という立場で、発電所の安全対策を担当しています。

平成23年3月11日の東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故は国内観測史上最大となるマグニチュード9.0という巨大な地震をきっかけに起こりました。揺れを感知した原子炉は自動停止したものの、およそ1時間後に襲来した約15メートルの巨大な津波で、炉心を冷やす機能がすべて失われ、炉心損傷や水素爆発などを引き起こし、放射性物質を放出することになりました。

平成 25 年 7 月,国の原子力規制委員会は、事故を踏まえ、今までの規制を強化するとともに、自然災害やシビアアクシデント(重大事故)対策などを取り入れた新しい規制基準を策定しました。新規制基準は IAEA (国際原子力機関)や世界各国が定めた基準と同等か、それ以上の内容が盛り込まれ、「世界最高水準の基準」となっています。

島根原子力発電所では、事故を教訓として、「事故は起きない」のではなく、「事故は起こり得る」との前提に立ち、「事故は決して起こさない」という強い決意の下、さまざまな安全対策に取り組んでいます。

【地震への対策】

発電所は地震に耐える設備とする ために、設計・建設段階から、徹底 した活断層調査と地震動評価を行っ たうえで発電所を建設し、その後も 最新の知見を適宜反映しながら、必 要に応じて耐震裕度向上工事を行っ ています。

【津波への対策】

津波による発電所敷地における最高水位は,施設護岸で海抜 9.5 メートルですが,津波対策として設置し



た海抜15メートルの防波壁の高さを十分下回っています。また、万一、津波が防波壁を越

えた場合でも、安全上重要な設備を浸水から守るため、建物の外側扉と内側の通路、設備 室入口等に水密扉を何重にも設置しています。

【自然災害への対策】

火山, 竜巻, 森林火災等の自然災害により, 原子炉設備の安全機能が一斉に失われることを防止するため, 発生が予想される自然災害が発電所に与える影響を評価し, 安全性を損なうおそれのないことを確認しました。

【電源・冷却機能確保への対策】

設備を動かす要となる電源について,既存の電源設備の信頼性を強化するとともに,万一それらが失われた場合でも,別の電源で対応できるよう,多様な電源設備を確保しています。

炉心損傷を防ぐため,原子炉や燃料プールを冷やし続けられるよう,代替注水機能の確保,補給水・水源の確保等の対策を行っています。

【シビアアクシデント(重大事故)への対策】

万一, 炉心損傷などの重大事故に至った場合でも, 迅速な事故収束に向けた対応を行い, 放射性物質による周辺環境への影響をできるだけ抑えるために, 格納容器破損防止対策, 放射性物質の拡散防止対策, 免震重要棟 (万一の事故発生時の対応に万全を期すために建設した緊急時対策機能を有する免震構造の建物)の設置を行い万全を期しています。

【テロへの対策】

原子力発電所では従来から核物質防護の観点からテロ対策が義務付けられており、発電 所構内外の警備を実施しています。今回実施した対策についても、高圧発電機車や送水車 等の分散配備を行うなど一定のテロ対策の機能を有しています。なお、意図的な航空機衝 突などのテロリズムによって炉心損傷が発生した場合に備えて、特定重大事故等対処施設 (原子炉建物への故意による大型航空機の衝突、その他テロリズムの発生後、原子炉施設 の外から支援が行える施設)を整備します。

【防災対策の強化】

万一,発電所で緊急事態が発生した場合には関係機関が一体となり,避難指示や緊急時 医療などの対策を講じる必要があるため,関係各所に情報通信ネットワーク設備を配備し ています。また,万一の時に迅速かつ的確に対応できるよう継続的に訓練を実施していま す。

これらの安全対策を進めるに当たっては、土地造成工事を始めとする各種土木工事を 我々土木技術者が先頭に立って進めなければなりません。電力会社の中では、土木技術者 は少数ですが、「縁の下の力持ち」となって、これからも発電所の安全性を高めていきたい と思います。

最後になりましたが、暁木会並びに市民工学科の皆様のますますのご発展を祈念しております。

現役最前線

土木公務員の仕事について

岡山県土木部道路整備課 小野さゆり 08C

私は、平成22年に大学院を修了後、地元の岡山県に就職し、 現在、入庁6年目になります。これまで県北の事務所に3年間 勤務した後、県庁で道路の維持管理を担当する道路整備課とい う部署に勤務しています。

土木部の仕事には、道路、河川、砂防、港湾など様々な分野がありますが、土木公務員はどんな仕事をしているのか、岡山県の道路事業を紹介させていただきます。



おかやまの道路事業

◆情報発信・広報活動

岡山県土木部ではホームページにより県内の歴史的土 木資産を紹介しています。そのほか facebook などを活用し た情報発信を行い、公共事業への理解を求めるとともに、 建設業界へ関心を持ってもらう取り組みを行っています。

出前事業や広報活動なども意欲があれば、所属に拘らず 参加できます。

◎おかやまの歴史的土木資産:

http://www.civil.pref.okayama.jp/

◎おかやまの土木・建築:

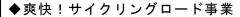
https://ja-jp.facebook.com/pref.okayama.doboku



◆交通基盤整備

中国横断自動車道岡山米子線の4車線化や地域高規格 道路をはじめとする地域間連絡道路の整備を推進してい ます。IC や物流拠点へのアクセス強化や交通渋滞の緩和 に資する道路整備を行っています。

維持管理の時代と言われ大規模な建設事業が少ないのが現状ですが、トンネルや長大橋などの設計、施工にも携わることができます。



ロードバイク等サイクリング・ブームを捉え、既存の道路をサイクリング推奨ルートとして選定し、路面標示、案内看板等を主とした整備を進めています。

そのほか道の駅の整備拡充などを市町村等と連携して 行ったり、縁の下ではなく地元の魅力を発信していくよう な仕事に携わることもできます。





◆交通安全対策

交通事故が多発している幹線道路や通学路を中心に歩 道等の整備や交差点改良による道路環境の整備を地域や 学校と進めています。

最近では、路肩のカラー化、路面標示などによる経済的かつ即効的な安全対策やプローブデータ(カーナビ情報)を活用したヒヤリハット対策なども進めています。



◆中山間地域の安全で円滑な交通を確保する道づくり

「おかやまスタンダード」と呼ぶ県独自の基準により、 効率的・効果的な道路整備を推進しています。

限られた予算の中で、多くのニーズに応えられるよう思 案しています。



◆公共施設等の耐震化、防災施設整備、土木施設の戦略的維持管理

落石・崩土等の道路災害を未然に防ぐハード整備とともに、道路情報板やネット等を通じて、道路情報を迅速に提供するソフト対策の充実に向けて取り組んでいます。

また近年、話題となっている公共施設の老朽化対策として、橋梁、トンネルをはじめとする多種多様かつ膨大な管理施設の戦略的維持管理に向けて悪戦苦闘する日々です。



◆おかやまアダプト推進事業

「アダプト」は耳慣れない言葉かもしれませんが、美しく快適な生活環境をつくるため、地域の清掃美化活動をしている団体を支援し、自治体と住民・企業が協働でまちづくりに取り組む活動です。土木事業の推進には地元の方々の理解と協力が欠かせません。



いくつか代表的な取り組みを紹介させていただきましたが、次に私の担当業務と現在感じている課題についてお話させて頂きます。

私は、道路の維持管理の中でも主に舗装と道路照明を担当しており、県が管理する約3,600kmの舗装や約14,000 灯の道路照明をどのように管理し、更新していくかということを考える立場にあります。自分が決定したことで県全体が動くというのは、とてもやりがいがありますが、どのように進めるか決まっているわけではなく、経験不足、技術不足から迷うことが多々あります。

そして、正直に言えば、アセットマネジメントを考える上で、県はかなり厳しい状況にあると感じています。理想的な維持管理のためには予算、技術力、過去のデータ、期間など様々な課題がありますが、重要なのは「理想的な維持管理」とは何かを考え、県民がそれを選ぶための情報発信ではないかと思います。

また、最近、大学や NPO で地域活性化などに取り組まれている方とお話する機会があり、そこで老朽化や防災で要対策箇所の数や今後の想定などに触れると、その実態に驚かれたり、資料の提供を求められたりします。つまり公共土木施設の現状と課題は、かなり関心が高い方にも伝わっていないということです。土木技術者が縁の下の力持ちから、表に出なくてはならない時代なのではないかと感じています。

最後になりましたが、今後とも暁木会をはじめとする多くの皆様のご指導を得ながら精 進していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

③回生 卒業 50 周年同窓会

平成27年4月16日、③回生の卒業50周年同窓会をANAクラウンプラザホテル神戸で開き、昭和36年入学あるいは40年卒業の者16名が集まった。③回生は、土木工学科定員25名のときの最後の回生で、40年の卒業者は23名であった。卒業6か月前の39年10月1日には東海道新幹線が10日後の東京オリンピック開催に備えて開通し、羽田〜浜松町ではモノレールが開通した。入学(36年)から卒業までの4年間には、黒四ダムの完成、名神高速道路の部分開通(全線開通は40年7月)、日本初の横断歩道橋が大阪駅前に完成などがあり、土木工学を学んでいることにわくわくする充実を感じることができた。一方、この4年間には神戸の集中豪雨・土砂災害をはじめ、第2室戸台風、西日本豪雨、十勝岳や三宅島雄山の噴火、新潟地震などがあり、自然災害への防災対策も土木工学の重要課題であることを認識した。

世の期待をガッチリと受け止めヤル気満々で大学を飛び出していった若者も、ひと仕事、ふた仕事・・・を全力でやり遂げての70有余才になると、さすがに年齢相応の風貌になったが、近況から始まる諸々の話題でぶっちゃけ話になると50年前の表情・仕草にもどる。麻雀、パチンコ、碁・将棋、部活優先での授業のさぼり、飲み屋で・・などなどは共通の話題。近況では、各々が世の柵から離れて、のびのび・いきいきの日常。70才を過ぎると「健康寿命」が云々されるけれども、集まった全員の健康寿命はきっと長いだろうと思わせる盛り上がりだ。1次会、2次会と6時間近く話していても話が尽きない集まりであった。尽きない話の続きを再会のときに約して散会した。思えば「たったの4年間」同じ釜の飯を食ったことで、50年後でも、あっという間に気の置けない居心地のいい雰囲気の集まりになるという「同窓」の不思議に、ちょっとした感慨をもった1日であった。

(文責: 川谷 健 (13))

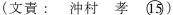


⑤回生 古希同窓会

⑤回生は、関西在住の同窓生が年に 3~4 回ゴルフ懇親会を開催しているが、2014 年 9 月初旬の例会後の懇親会で、古来、希な歳まで生きてきたことを寿ぐために、一度、同窓会をしようということになり、藤原さん、神木さん、梶谷さん、本下さんらと企画した。藤原さん、神木さんの奔走で、12 月 15 日から 16 日にかけて一泊二日で、神戸市北区にある「しあわせの村」で開催することにし、連絡が取れる同窓生に案内を出した。当日は北海道、関東から名古屋、関西、四国に至るまで、各地から 18 人もの参加を得て盛大に開催することができた。

一日目の 15 日の昼間は、ゴルフで楽しむ組と、梶谷さんのお世話を受けて午前中に 4 人が母校を訪問した。大学では澁谷先生、藤田先生、森川先生の実験室を見学させていただいた。学生時代に卒業研究で没頭した実験の思い出に花が咲くひと時となった。貴重な時間を割いて案内していただいた 3 人の先生に厚くお礼申し上げます。午後は 5 人が神戸港めぐりを堪能した。神戸港や沿岸部の大きな変容に皆さん一様に感無量という感じでした。夜の呑み放題付きの宴会では、まず参加者から近況報告がそれぞれあったが、簡単なあいさつをする人からから癌を克服した話や、近況報告もソコソコに延々と持論を展開する同窓生など学生時代には見られなかった新しい個性に触れることができ、更に旧交を深め、別室の二次会までも和気藹々としたひと時を過ごすことができた。翌日は、ゴルフが計画されていたが、あいにくの雨で中止となり次回のプレーを予約して散会した。同窓会に参加できなかった人からは、ご自身の近況報告とともに。次回は必ず参加するから連絡を・・・との連絡も頂き、有意義な情報交換もできた。

次回は、3 年後が卒業 50 周年となることから、この頃に必ず開催することを約束して散会した。孔子の「論語」には、「70 にして心の欲するところに従って矩を越えず」と記されているが、わが同窓生の多くは年老いてなお矍鑠(かくしゃく)として毎日を読書やスポーツ、趣味に熱中し、孔子が定義した「矩」をはるかに超えていると思われる輩も多いため、数年後の卒業 50 周年記念同窓会が盛大かつ賑やかになることは確実で、今から多くの同窓生の参加を期待しています。





軽部先生を偲ぶ会

いよいよ夏本番に近づいた 6月最後の日曜日、四十九日の喪が明けたところで、工学部 食堂 AMEC³ に軽部研究室の同窓で、軽部先生を偲ぶ会を開催しました。関西一円はもち ろん、海外からの参加者もあり、同窓ならではの気の置けない会話を楽しみながら、軽部 先生を中心とした「縁」の大切さを思い出させてくれるひと時でした。

今回は軽部先生のご長男の壮太様をお招きしましたが、先生の貴重なノートをお持ちいただきました。久しぶりに先生の肉筆を拝見し、卒業研究を懇切丁寧に修正していただいたときのことを思い出しました。代表的なページを添付しましたので、同窓の方々は是非ご覧ください。今後も定期的に偲ぶ会を開きたいと思っていますので、参加がかなわなかった方も是非次回はご参加頂きますよう、よろしくお願いします。

なお、暁木会ホームページ【同窓会だより】に同窓会報告~軽部先生を偲ぶ会 2015 の 詳細報告を掲載しています。下記アドレスでご確認ください。

http://www.gyoubokukai.jp/class/class.html

(文責 96C 野並 賢)



東京支部総会報告

平成27年度暁木会東京支部総会を平成27年6月5日(金)、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催しました。来賓として大学より三木朋広准教授、暁木会本部 寺谷 毅副会長にご出席いただき、また東京支部会員は46名が参加しました。

まず総会前に三木准教授より「コンクリート構造物の性能評価に関する研究」というテーマでご講演いただきました。

総会では山下支部長の挨拶に引き続き、竹中敏雄支部長(新 29)、野村 貢副支部長(新 32)、森田 篤事務局長(新 35)という新役員人事を含むすべての議案が滞りなく承認されました。

寺谷副会長よりご挨拶と本部の活動状況のお話しをいただいた後、最後に本部助成金目録 の支部長への授与をもって総会議事を終了しました。

懇親会は冒頭に三木先生より大学の近況のご報告をいただき、参加者代表である則久芳行氏(新17)による乾杯の発声により始まりました。途中、旧交を温めるグループ、先輩のお話に耳を傾ける若手などあちこちで歓談の輪ができ、新会員の水口大夢君、佐藤圭介君の新人紹介など盛況な中、懇親会が終了しました。

平成 27 年度は新支部長、副支部長のもと、いっそう暁木会の活動の輪を拡げていきたいと事務局一同、考えております。どうぞみなさまのご支援、ご協力のほどよろしくお願いします。



報告者 東京支部事務局 建設技術研究所 野村 貢(32)

寺谷副会長、三木准教授とともに集合写真

暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から現在、1,100 余名(会員総数 3700 余名)を数える会員の皆様方の会費によって、暁木会の日常活動を進めております。会員の皆様には、暁木会の活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには、未だ十分な財源が確保できておりません。現在、KTCのメーリングリストや、クラス幹事、各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費会員へのサービスとしては、暁木会ニュースおよび会員名簿の発行をさせていただいております。会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡くださいませ。よろしくお願い致します。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者(三菱UF Jニコス株式会社) に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申 し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。 特に、同窓会をされた際には、ぜひその様子を寄稿下さいませ。その他、ご意見ご要望等 がございましたら、下記連絡先までよろしくお願いします。

発 行 者: 暁 木 会

E-mai: info@gyobokukai.jp

連絡先:常任幹事広報 G 小川 清貴 42

協和設計株式会社

TEL: 072-627-9351 FAX: 072-627-9357

E-mai: ogawa@kyowask.co.jp